

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330432095	家庭科教育法 Teaching Method of Domestic Sciences	熊崎 稔子			2	選択	3後期

科目の概要

本学の教育目標と教育方針の実践を通して、自ら学ぶ能力を身につけるとともに、小学校教員になるための専門的知識・技能だけでなく一般的知識・技能を身につけ、児童が課題を解決し、個々の成長につなげることのできる教員養成を目指す(DP1・3・5)。
児童を取り巻く生活課題を取り上げ、「生きる力」を身につけるための家庭科教育の果たす役割や可能性について考える。小学校家庭科の指導が必要とされる衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、小学校家庭科で必要となる基礎的・基本的な知識と技能習得もめざしていく。また、学習指導案を作成し模擬授業を行うことで教師になるための指導力の習得を目指す。

学修内容	到達目標
① 学習指導要領（平成29年告示）家庭編の目標や内容を学修する。 ② 家庭科教育の特性を踏まえて教材研究し、その上で学習指導案の作成をする。 ③ 学習指導案に基づいて模擬授業を考え、実施する。	① 小学校学習指導要領（平成29年告示）家庭編の目標や内容を説明することができる。 ② 家庭科教育の特性を踏まえて教材研究し、その上で学習指導案を作成することができる。 ③ 模擬授業において、児童の反応をみながら、学習指導案に沿って家庭科の授業ができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	到達目標を達成するという目標に向かって指示がなくても、課題を自ら見つけて取り組むことができる。
	働きかけ力	
	実行力	課題を仕上げるための手順や方法を考えて確実に目標に向かって進めることができる。
考え抜く力	課題発見力	事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。
	計画力	
	創造力	物事を考える時に、固定概念に捉われないこととなくいろいろな方向から考えることができる。
チームで働く力	発信力	整理した内容を的確なことばや文章で表現できる。
	傾聴力	グループワークで、他者の意見を確認し、さらに自分の意見を述べることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	無断欠席、遅刻、居眠り、私語など講義に支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。提出物を期限内に提出することができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編」文部科学省
「わたしたちの家庭科5・6」開隆堂

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：本科目は小学校教員免許取得のための必修科目であり、小学校で家庭科の授業を行うに際しての基礎的な理論を中心に授業の行い方を学習していく。「家庭科研究」で修得した理論的内容を、より実践的な指導力向上へと図っていく。そして、その後の「小家庭」へと繋がっていく。

資格との関連：小学校教諭一種

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> 愛知県総合教育センターに掲載されている学習指導案を参考にするとよい。 配布プリントはファイルに綴じて整理すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻は20分以内とする。3回遅刻で1回欠席になる。 模擬授業で必要なものは全て各自で準備する。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
	平常評価	小テスト		10	①		<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスをきちんと読んで活用しているかを評価する。 ・衣生活・食生活領域における用語や内容の理解度を評価する。 【獲得】小学校家庭科を教えるための基礎知識：50% 【活用】小学校家庭科における授業での知識の活用：25% 【解決】小学校家庭科における授業で、児童が失敗した時の対応力：25%
					②		
					③		
		レポート		40	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内でのレポートや模擬授業の学習指導案を評価する。 ・他者の模擬授業へのコメントを評価する。 【獲得】学習指導要領の小学校家庭科の目標についての理解：20% 【活用】学修内容を踏まえて、学習指導案を作成：50% 【解決】模擬授業の振り返りをし、改善点をみいだすことができる：30%
					②	✓	
③							
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）			40	①		作成した学習指導案をもとに、模擬授業を行う。 模擬授業の評価ポイントは講義時に伝える。 【獲得】講義を踏まえた領域や活動内容を設定できる：25% 【活用】計画した授業内容の実施やそのための説明ができる：25% 【解決】児童にとって効果的な学習活動、学習の場となっている：50% 模擬授業を行う教師役だけでなく、児童役として参加し、他者の模擬授業に対して自分なりの考えをもち、学ぶ姿勢やコメントも評価する。	
				②			
	③			✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性）到達目標を達成するという目標に向かって指示が無くても、課題を自ら見つけて取り組むことができる。 （実行力）課題を仕上げるための手順や方法を考えて確実に目標に向かって進めることができる。 （課題発見力）事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。 （創造力）物事を考える時に、固定概念に捉われないことと色々な方向から考えることができる。 （発信力）整理した内容を的確な文章で表現できる。 （傾聴力）グループワークで、他者の意見を確認し、さらに自分の意見を述べるができる。 （規律性）遅刻、居眠り、私語、など講義に支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。提出物を期限内に提出することができる。		
			②	✓			
			③	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S：学習指導案の作成において、講義で学んだポイントを最大限活用し、自分の言葉で十分に詳述することができる。そして、自身が作成した学習指導案に沿って円滑に模擬授業を行うことができる。また、他者の模擬授業をみて、適切なコメントを具体的に記述することができる。</p> <p>A：学習指導案の作成において、講義で学んだポイントを最大限活用し、自分の言葉で詳述することができる。そして、自身が作成した学習指導案に沿って円滑に模擬授業を行うことができる。また、他者の模擬授業をみて、適切なコメントを記述することができる。</p>	<p>B：学習指導案の作成において、講義で学んだポイントのある程度活用し、自分の言葉で詳述することができる。そして、自身が作成した学習指導案に沿って模擬授業を行うことができる。また、他者の模擬授業をみて、コメントを記述することができる。</p> <p>C：学習指導案の作成において、講義で学んだ内容の一部を活用し、自分の言葉で詳述することができる。そして、自身が作成した学習指導案に沿って模擬授業を行うことができる。また、他者の模擬授業をみて、コメントを記述することができる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション データから見る小学生 の生活の変容	講義 グループワーク フィードバック	指導対象となる小学生 の生活の実態を把握す ることができる。	<予習>2年次の「家庭 科研究」を復習する。 <復習>小学生の生活の 変容をまとめる。	180	主体性 実行力 規律性
2	学習指導要領の解説	講義 質疑応答にてフィード バック	小学校家庭科の目標や 内容、単位数、指導上 の留意点が説明でき る。	<予習>小学校学習指導 要領(平成29年告示)解 説 家庭編を読む。 <復習>小学校学習指導 要領(平成29年告示)解 説 家庭編のポイント を整理する。	180	主体性 実行力 規律性
3	家庭科の学習内容の範囲 年間指導計画を読み解 く	講義 質疑応答にてフィード バック	家庭科の学習内容の範囲 を見通すことができる。	<予習>小学校家庭科の 年間指導計画を調べ る。 <復習>小学校家庭科の 年間指導計画のポイン トを整理する。	180	主体性 実行力 規律性
4	評価方法の検討	講義 グループワーク	家庭科の評価方法、と くに技能の習得に関し て、理解できる。	<予習>国立教育政策研 究所が公刊した、「指 導と評価の一体化」を 熟読する。 <復習>家庭科の評価方 法に関するポイントを まとめる。	180	主体性 実行力 規律性
5	教科書調査	講義 グループワーク	教科書の構成を把握す ることができる。	<予習>指定の教科書を 読む。 <復習>教科書の内容と 学習指導用との対応を 確認する。	180	主体性 実行力 課題発 見力 規律性
6	学習指導案の作成	講義・演習 グループワーク フィードバック	学習指導要領の目標を 達成するための計画を 考えることができる。	<予習>学習指導案を作 成する。模擬授業の準 備をする。 <復習>振り返りで指摘 された内容を中心に、 学習指導案を改善す る。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	学習指導案の作成と改 善	講義・演習 グループワーク フィードバック	学習指導案の構成を理 解し、学習指導案を作 成できる。	<予習>学習指導案を作 成する。模擬授業の準 備をする。 <復習>振り返りで指摘 された内容を中心に、 学習指導案を改善す るとともに、模擬授業の 準備をする。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	模擬授業①	模擬授業 グループワーク フィードバック	計画通りに模擬授業を 実施することができる。 模擬授業を振り返り、 改善に向けた手立てを 考えることができる。 他者の授業に適切なコ メントをすることができる。	<予習>学習指導案を作 成する。模擬授業の準 備をする。 <復習>振り返りで指摘 された内容を中心に、 学習指導案を改善す る。	180	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	模擬授業②	模擬授業 グループワーク フィードバック	計画通りに模擬授業を実施することができる。 模擬授業を振り返り、改善に向けた手立てを考えることができる。 他者の授業に適切なコメントをすることができる。	<予習>学習指導案を作成する。模擬授業の準備をする。 <復習>振り返りで指摘された内容を中心に、学習指導案を改善する。	180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
10	模擬授業③	模擬授業 グループワーク フィードバック	計画通りに模擬授業を実施することができる。 模擬授業を振り返り、改善に向けた手立てを考えることができる。 他者の授業に適切なコメントをすることができる。	<予習>学習指導案を作成する。模擬授業の準備をする。 <復習>振り返りで指摘された内容を中心に、学習指導案を改善する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	模擬授業④	模擬授業 グループワーク フィードバック	計画通りに模擬授業を実施することができる。 模擬授業を振り返り、改善に向けた手立てを考えることができる。 他者の授業に適切なコメントをすることができる。	<予習>学習指導案を作成する。模擬授業の準備をする。 <復習>振り返りで指摘された内容を中心に、学習指導案を改善する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	模擬授業⑤	模擬授業 グループワーク フィードバック	計画通りに模擬授業を実施することができる。 模擬授業を振り返り、改善に向けた手立てを考えることができる。 他者の授業に適切なコメントをすることができる。	<予習>学習指導案を作成する。模擬授業の準備をする。 <復習>振り返りで指摘された内容を中心に、学習指導案を改善する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	模擬授業⑥	模擬授業 グループワーク フィードバック	計画通りに模擬授業を実施することができる。 模擬授業を振り返り、改善に向けた手立てを考えることができる。 他者の授業に適切なコメントをすることができる。	<予習>学習指導案を作成する。模擬授業の準備をする。 <復習>振り返りで指摘された内容を中心に、学習指導案を改善する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	現代の家庭や子どもの生活問題と、これからの家庭科教育	講義 レポート作成	現代の家庭・子どもの生活問題を解決するための家庭科教育について、自分の言葉で説明することができる。	<予習>子どもの生活問題について調べる。 <復習>子どもの生活問題の解決方法についてまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
15	レポートのグループワーク・発表	講義 グループワーク フィードバック	授業全体を通しての自らの学びや気づきを振り返ることができる。	<予習>オンデマンドで作成したレポートの見直し <復習>現代の子どもを取り巻く問題点を整理し、家庭科教育の意義を考える	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力